

2025 年 10 月 8 日 全 16 頁

一部の地域は企業関連で改善の兆し～物価高・海外動向・新政権の政策を注視

2025 年 10 月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

経済調査部	主任研究員	溝端 幹雄
	主任研究員	田邊 美穂
	研究員	高須 百華

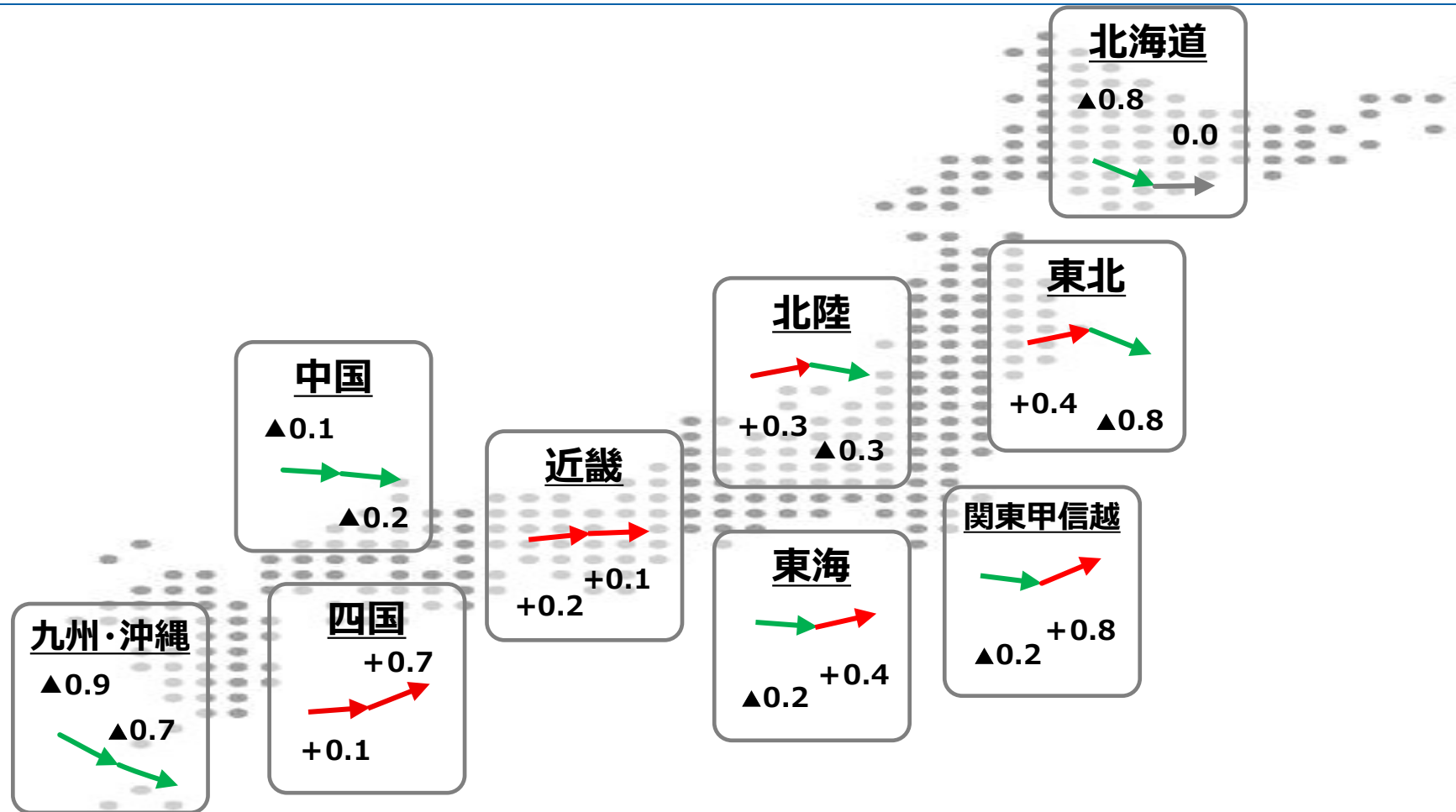
[要約]

- 2025 年 10 月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「関東甲信越」「四国」など 4 地域で改善、「東北」「九州・沖縄」など 4 地域で悪化、そして「北海道」で横ばいだった。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、消費が「北陸」「北海道」「中国」などで悪化した。特にこれらの 3 地域は乗用車販売が悪化している。さらに「北海道」は消費者の節約志向でスーパーや飲食・観光が悪化しており、「北陸」は百貨店でインバウンド需要の鈍化の影響なども見られる。一方、「九州・沖縄」では一部 OS のサポート終了に伴うパソコン販売の好調で家電販売が改善した。住宅投資は、2025 年 4 月の建築基準法改正による建築確認の審査期間の長期化の影響等により、「北陸」「東北」で悪化した。雇用・所得環境については全国的に変化がなかった。企業関連では、企業マインドが「四国」「東海」「北陸」などで改善した。「四国」では紙・パルプや輸送用機械、「東海」では金属製品や鉄鋼、「北陸」では非鉄金属など、特に製造業で改善が見られる。一方、「東北」「九州・沖縄」では企業マインドが悪化した。「東北」は情報通信や食料品、「九州・沖縄」は非鉄金属などで悪化している。生産は「関東甲信越」などで改善した。各国の通商政策の不確実性は高いものの、その影響は限定的とみているようだ。輸出も、「関東甲信越」ではデータセンター向けや自動車向けの電子部品・デバイスなどで改善が見られる。なお、設備投資は全国的に変化がなかった。
- 全国的に見ると、緩やかな回復の基調を維持しているが、物価高の影響や先行きの不確実性が高いことにより、一部で回復のペースに鈍化が見られる。消費に関しては、物価高やインバウンド需要の一服感が影響し、節約志向が強まっている地域が多い。一方、企業を取り巻く環境は各国の通商政策の不透明感が引き続き強いものの、AI 関連需要の拡大や海外需要が堅調に推移していることもあって、前回（2025 年 7 月）よりは改善の兆しが見られる。今後は、物価高の影響を受けた消費の回復が鍵となる一方、海外経済の動向や国内の新政権が打ち出す政策が生産・輸出や設備投資に与える影響も注目される。外部環境の不確実性や物価高を引き続き警戒しつつ、地域ごとの経済動向を注視した、全体としての回復基調を維持するための施策が求められるだろう。

※本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発は、デジタルソリューション研究開発部データアナリティクスグループが担当している。

※本レポートの文章は GPT-4o ベースの ChatGPT が出力した内容を基に研究員が執筆した。

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (25 年 4 月→7 月、25 年 7 月→10 月)



(注1) 各地域の数値は、2025年4月から7月の変化幅と2025年7月から10月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域 AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（25 年 7 月→10 月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	0.0						
東北	▲0.8						
北陸	▲0.3						
関東甲信越	+0.8						
東海	+0.4						
近畿	+0.1						
中国	▲0.2						
四国	+0.7						
九州・沖縄	▲0.7						

（注）さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

（出所）日本銀行資料より大和総研作成

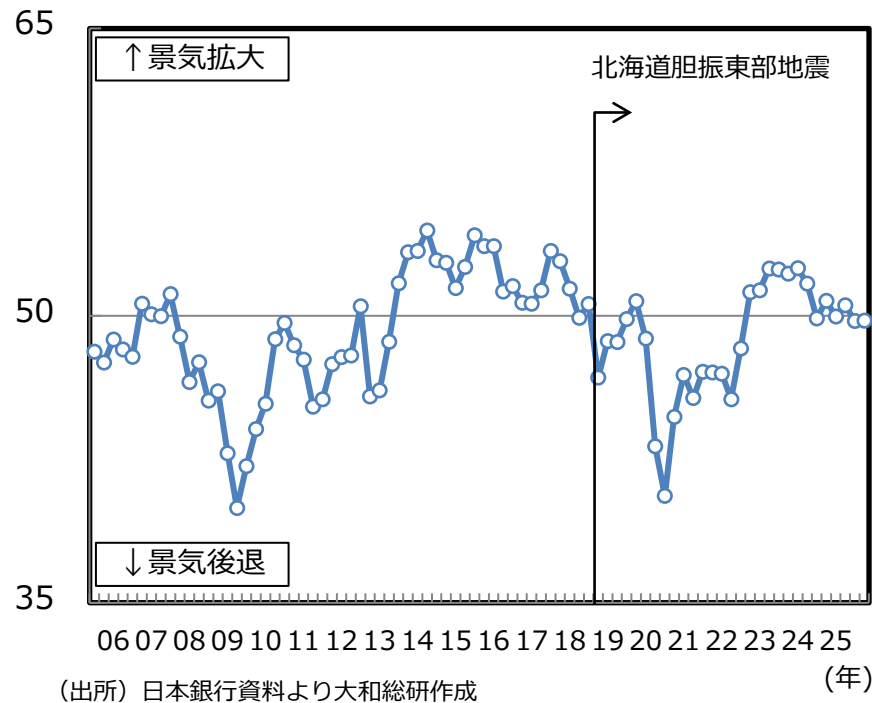
大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (25 年 7 月→10 月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、前期から横ばいであった(25 年 7 月:49.7→25 年 10 月:49.7)。消費が悪化したものの、生産などが改善したため、インデックスは横ばいとなった。
東北	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(25 年 7 月:52.2→25 年 10 月:51.4)。企業マインド等の悪化がインデックスを押し下げた。
北陸	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した(25 年 7 月:51.1→25 年 10 月:50.8)。企業マインドなどが改善したものの、消費や住宅投資の悪化を受けてインデックスは低下した。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(25 年 7 月:52.8→25 年 10 月:53.6)。生産や輸出の改善がインデックスを押し上げた。
東海	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに上昇した(25 年 7 月:55.5→25 年 10 月:55.9)。企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
近畿	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(25 年 7 月:52.9→25 年 10 月:53.0)。ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスはわずかな上昇にとどまった。
中国	大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で下落した(25 年 7 月:50.9→25 年 10 月:50.7)。企業マインドが改善したものの、消費の悪化を受けてインデックスは低下した。
四国	大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した(25 年 7 月:50.5→25 年 10 月:51.2)。消費が悪化したものの、企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(25 年 7 月:50.8→25 年 10 月:50.1)。消費が改善した一方で、企業マインドの悪化がインデックスを押し下げた。

北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、前期から横ばいであった(25 年 7 月:49.7→25 年 10 月:49.7)。
- 消費が悪化したものの、生産などが改善したため、インデックスは横ばいとなった。
- 消費は、乗用車販売の悪化に加えて、消費者の節約志向でスーパーや飲食・観光が悪化した。一方、生産は金属製品において改善の動きが見られる。

大和地域 AI インデックスの推移



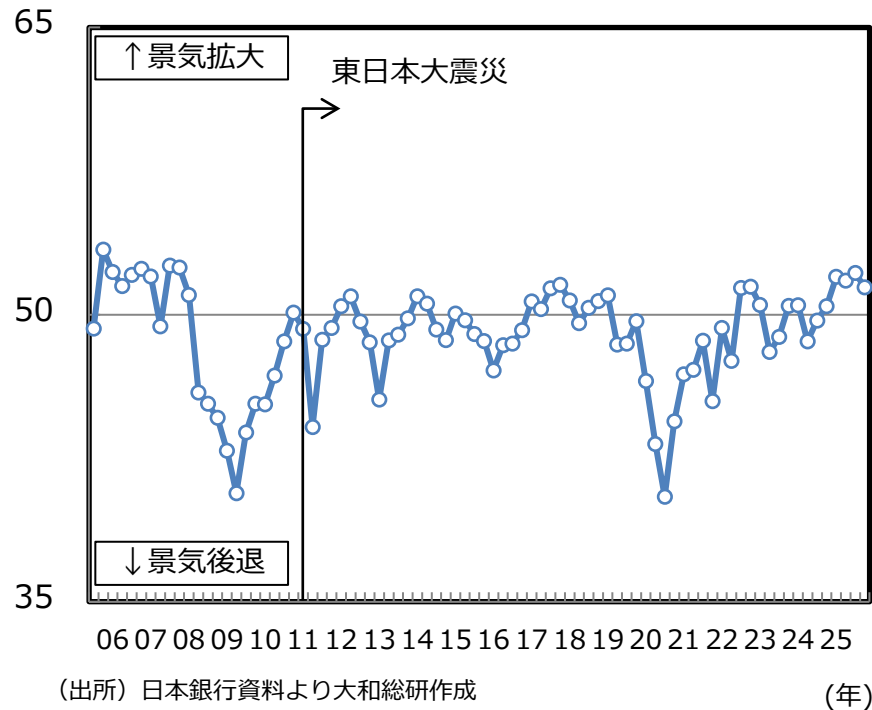
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 7 月	25 年 10 月
【総括判断】	↓
一部に弱めの動きがみられるが、 持ち直している	一部に弱めの動きがみられるが、 緩やかに持ち直している
【消費】	↓
物価上昇の影響を受けつつも、 堅調に推移している	物価上昇の影響を受けつつも、 底堅く推移している
【生産：金属製品】	↑
弱めの動きとなっている	持ち直しの兆しがみられている

東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(25 年 7 月:52.2→25 年 10 月:51.4)。
- 企業マインド等の悪化がインデックスを押し下げた。
- 企業マインドは情報通信や食料品などで悪化した。住宅投資も 2025 年 4 月の建築基準法改正後の動きが総じて低調であり、さらに建築コストの高止まりや住宅ローン金利の上昇で分譲住宅の購入も慎重化した。

大和地域 AI インデックスの推移



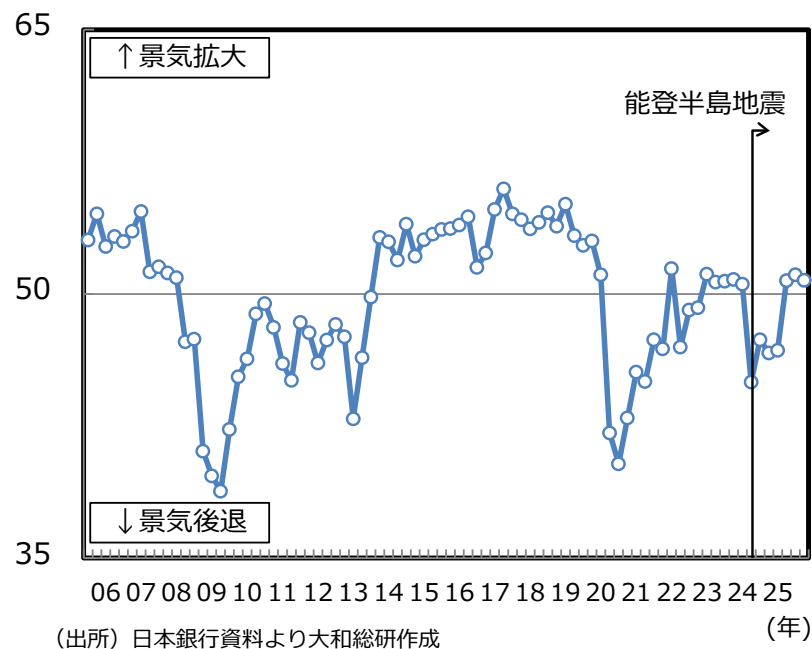
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 7 月	25 年 10 月
【総括判断】	→
持ち直している	持ち直している
【企業の業況感】	↓
改善している	悪化している
【住宅投資】	↓
弱い動きとなっている	減少している

北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した(25 年 7 月:51.1→25 年 10 月:50.8)。
- 企業マインドなどが改善したものの、消費や住宅投資の悪化を受けてインデックスは低下した。
- 消費は乗用車販売が悪化しており、百貨店ではインバウンド需要の鈍化の影響なども見られる。住宅投資は、2025 年 4 月の建築基準法改正による建築確認の審査期間の長期化の影響等により、悪化している。一方、企業マインドは非鉄金属など、特に製造業で改善が見られる。

大和地域 AI インデックスの推移



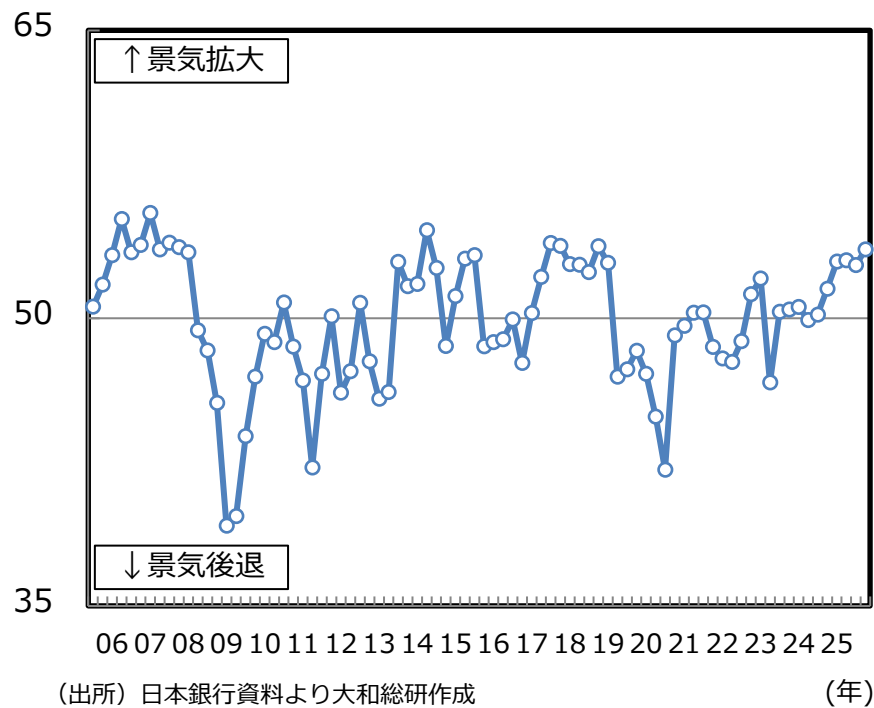
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 7 月	25 年 10 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きもみられるが、 緩やかに回復している	一部に弱めの動きもみられるが、 緩やかに回復している
【消費：乗用車販売】	↓
持ち直しつつある	持ち直しの動きが一服している
【企業の業況感】	↑
良好な水準を維持しているが、 幾分慎重化している	改善している

関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(25 年 7 月:52.8→25 年 10 月:53.6)。
- 生産や輸出の改善がインデックスを押し上げた。
- 各国の通商政策の不確実性は高いものの、その影響は限定的とみていることから、生産が改善している。輸出もデータセンター向けや自動車向けの電子部品・デバイスなどで改善が見られる。

大和地域 AI インデックスの推移



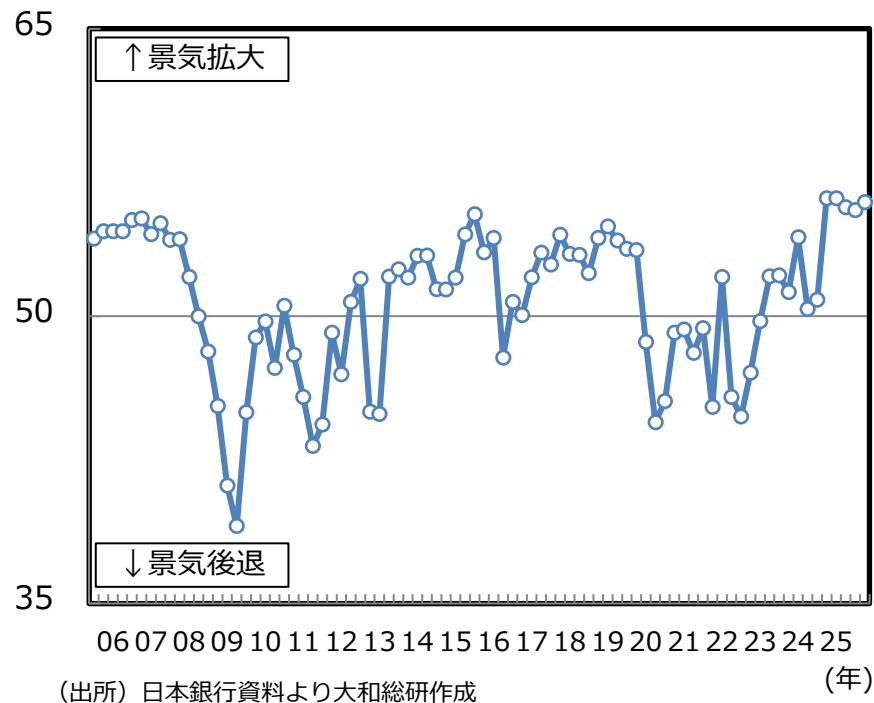
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 7 月	25 年 10 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
【設備投資】	→
増加している	増加している
【雇用・所得環境】	→
緩やかに改善している	緩やかに改善している

東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに上昇した(25 年 7 月:55.5→25 年 10 月:55.9)。
- 企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
- 企業マインドは金属製品や鉄鋼などで改善が見られた。

大和地域 AI インデックスの推移



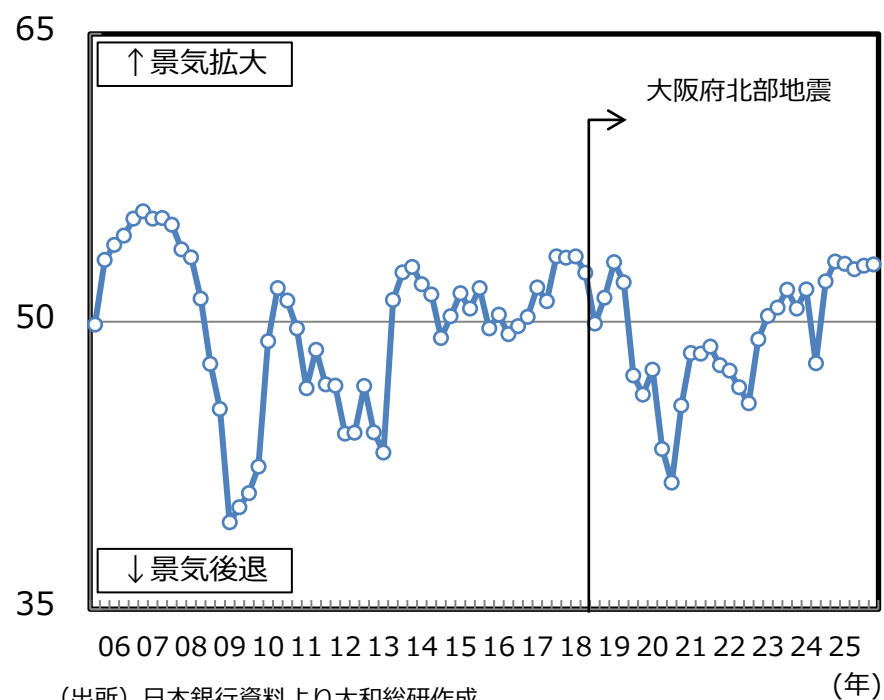
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 7 月	25 年 10 月
【総括判断】	→
緩やかに回復している	緩やかに回復している
【企業の業況感】	↑
良好な水準を維持している	改善している
【輸出】	→
増加基調にある	増加基調にある

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(25 年 7 月:52.9→25 年 10 月:53.0)。
- ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスはわずかな上昇にとどまった。
- 個人消費は、百貨店販売額において改善している。

大和地域 AI インデックスの推移



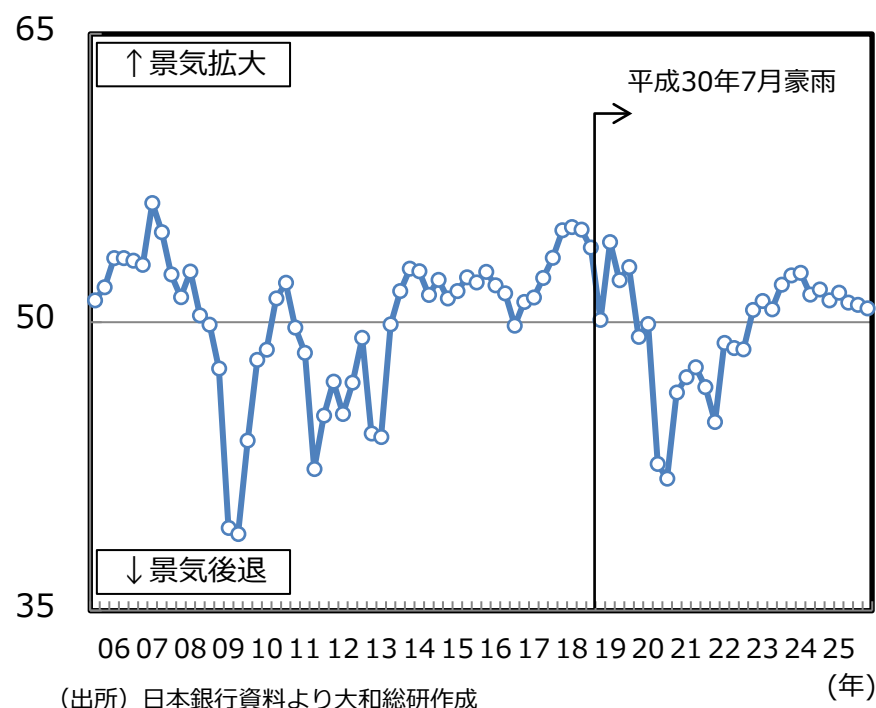
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 7 月	25 年 10 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している
【個人消費：百貨店販売額】	↑
振れを伴いつつも、基調としては増加している	高水準で推移している
【住宅投資】	→
横ばい圏内で推移している	横ばい圏内で推移している

中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で下落した(25 年 7 月:50.9→25 年 10 月:50.7)。
- 企業マインドが改善したものの、消費の悪化を受けてインデックスは低下した。
- 消費は乗用車販売が悪化した。企業マインドについては輸送用機械などで改善の動きが見られる。

大和地域 AI インデックスの推移



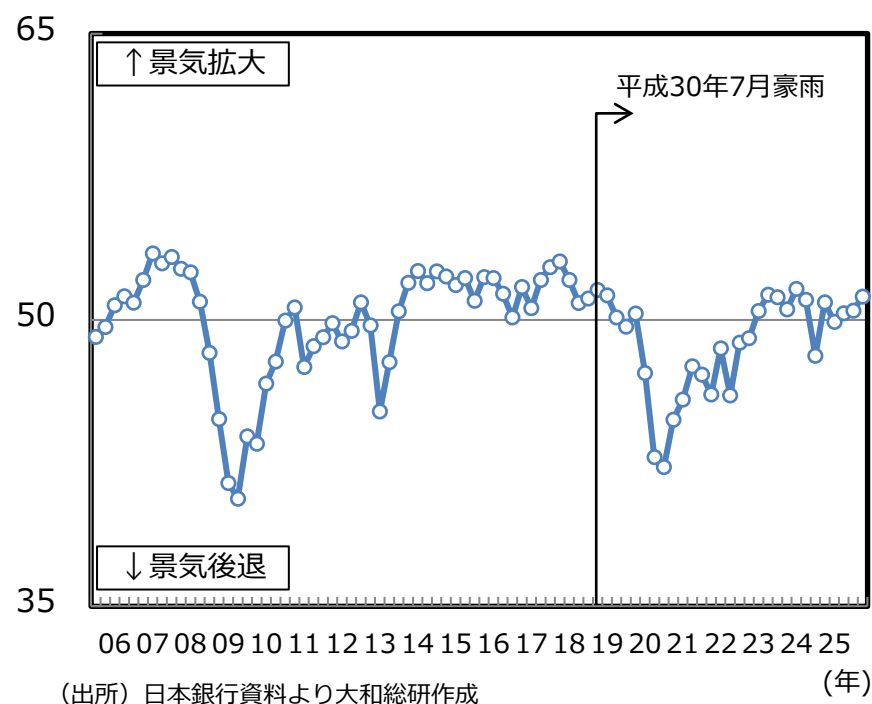
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 7 月	25 年 10 月
【総括判断】	→
緩やかな回復基調にある	緩やかな回復基調にある
【消費：乗用車販売】	↓
持ち直している	持ち直しの動きが一服している
【企業の業況感】	↑
幾分悪化している	概ね横ばいとなっている

四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した(25 年 7 月:50.5→25 年 10 月:51.2)。
- 消費が悪化したものの、企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
- 企業マインドは、紙・パルプや輸送用機械などで改善が見られた。一方、消費はコンビニエンスストア売上高において悪化している。

大和地域 AI インデックスの推移



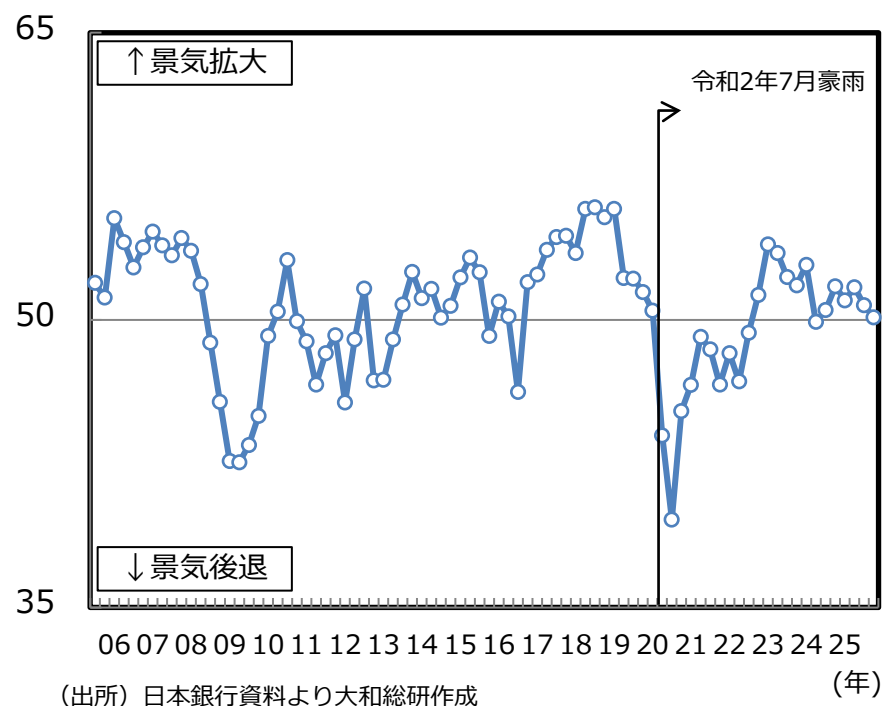
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 7 月	25 年 10 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【企業の業況感】	↑
幾分悪化している	製造業を中心に 幾分改善している
【消費：コンビニエンスストア売上高】	↓
回復している	堅調に推移している

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(25 年 7 月:50.8→25 年 10 月:50.1)。
- 消費が改善した一方で、企業マインドの悪化がインデックスを押し下げた。
- 企業マインドが非鉄金属などで悪化した。一方、消費は一部 OS のサポート終了に伴うパソコン販売の好調で、家電販売において改善が見られる。

大和地域 AI インデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 7 月	25 年 10 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している
【企業の業況感】	↓
幾分改善している	幾分悪化している
【消費：家電販売】	↑
弱めの動きとなっている	横ばい圏内の動きとなっている

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが**我が国の大きな課題となっている。
地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが**必要となる。
- 本レポートの特徴として、**AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した
「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、
各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。本レポートは、2025 年 10 月 6 日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

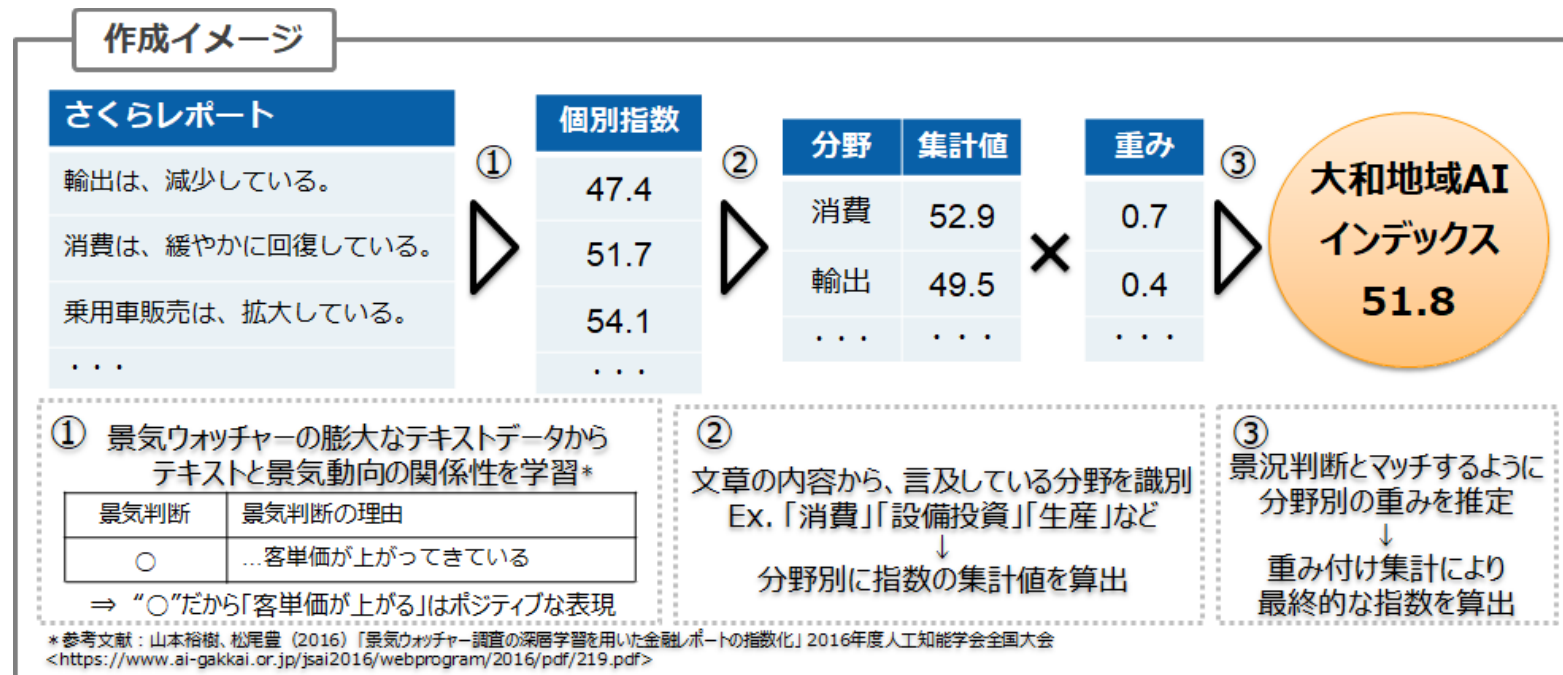
→ **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、 山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、 新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、 奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、 山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、 大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成